

郷土資料編 冊数四十五冊三頁二十頁(栗橋地区の二)

第三十二回史跡めぐり(栗橋地区)

越谷市郷土研究会

五霞村資料

岩井町御前新田 今井隆助造

◎ 川手指貝塚

権現堂川に連なる水田のつまる所の畑地
七十米平方に、魏・力半哈の貝殻散在。縄文式
土器、石斧等出土す。(五霞中学蔵)

又、昭和四年帯大秀古学部調査報告あり。
衣土下 二米 稻骨、石鏃、土器包含

◎ 冬木貝塚 (冬木知久發掘有)

権現堂川跡東方畑地 二十米平方
淡水産蛸等・縄文式土器出土(五霞中学蔵)

◎ 土治貝塚

利根川の入江水田に接する畑地 湧水産カキ
シオフキ、アサリ、蛤・縄文式土器、石器
弥生式土器。

◎ 古墳群

川手指「四八塚」と称されたが、今一、二墓
を残すのみ。

◎ 伊勢塚

(飛田典男氏宅裏)は、前方後田・長至六十米。
後田至四十米。二重土盛。高七米。西向、一帯
瓦葺の腰に直刀、須恵器出土。前方部の前面に
陪塚と認めしき經十二米・高三米の「筑神塚」
あり。

この「伊勢塚」の南方五十米の所に石室をむつ
た古墳、又西北方數十米を距てて山口徳丸廟の古
墳等が群をなして有った。これらの古墳群の位置
は東北に利根川を控え、北前に水田をめぐらした
地帯である。

◎ 穴薬師古墳 (川妻 藤沼喜一氏所有林)

利根川の南方一軒・前面に水田を控えた台地に
有る。蓋らしい岩石は入口の川径の側にあり、石
室は煉瓦型にした石で壁が造られ、高さ三・二米。
内方二米の円球状をなしている羨道もあり、入口
の經九十程の楕円穴のもの。奥に金銅の薬師像を
安置してあつたといふ説がある。

囲んだ。東昌寺は閉居攻めの本陣にあつた、九の喬札が掲げられた。

(岩波文庫利根川図説所載) 現存

糸 刀

下総国東昌寺(同寺蔵)

- 一、当寺門前百姓等急度可_レ遷住_二爭_一 在?
- 一、寺家門前不可_レ障取 原田島立毛不可_レ萌取_二爭_一
- 一、対寺中門前輩 狼藉非分の族 於有_レ之給 可_レ為_二一錢切_一事

右者放逐犯之輩者、忍可_レ致_二刈_一嚴科_二者_一也

天正十八年六月

秀吉 朱印

右の糸文によれば、門前百姓は戦火を避けて逃げていたのを呼び戻させた。そして東昌寺は本陣であるが、寺門前には兵を置かず、兵に新田などはさせない。又狼藉者は丸坊主にして棄入扱りにするといふのである。

「一錢切」とは赤髪剃りの意で、一毛落んでも首を切るといふのではない。当所の末座の料金は一錢だった。

天正二年以後十七年、北条氏政・氏直の傘下となつていた関宿城も落城して、松平康元が入城して領主となつた。他に寺室として、東照神君槍幕及馬廻掛巻を蔵す。

以 上